

唐津市男女共同参画基本計画（第4次）
（案）

（令和元年9月2日現在）

唐津市

第3部

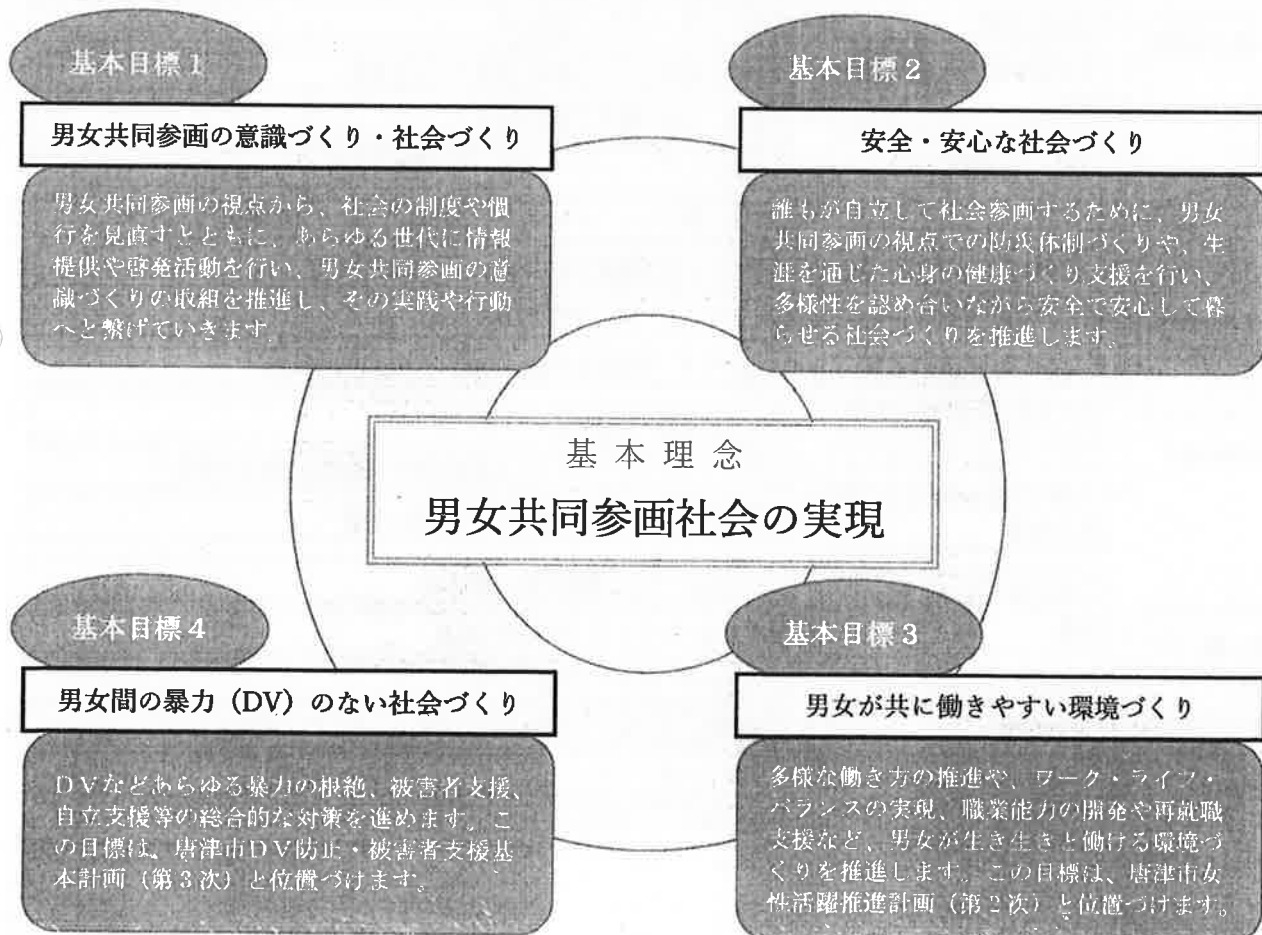
計画の内容

1 基本理念と4つの基本目標

唐津市では、これまでの計画から引き続き、男女共同参画社会基本法の理念を基に、「男女共同参画社会の実現」を目指します。

女性も、男性も、これまでの固定的な観念にとらわれず、一人の人間として自分らしく心豊かに生活できる社会をつくるため、互いに個性と能力を尊重し合い、ともに社会に参画し、その責任と義務を分かち合う男女共同参画社会の形成を目指して計画を策定します。

基本理念の実現に向けて、次の4つの基本目標を設定し、これまでの現状と課題を踏まえ、計画を体系的に推進します。



2 計画の体系図

基本理念 男女共同参画社会の実現



4次計画で改めて強調している視点

4次計画で改めて強調している視点は次のとおりです。

<男女共同参画の意識づくり・社会づくり>

(1) 男女共同参画社会の実現のためには、…

改善する。

(2) 市民意識調査を参考に…

推進する。

<安全・安心な社会づくり>

(3) …

進める。

(4) …

促進する。

<男女が共に働きやすい環境づくり>

【唐津市女性活躍推進計画】

(5) 社会が…

進める。

<男女間の暴力(DV)のない社会づくり>

【唐津市DV防止・被害者支援基本計画】

(6) 女性に対する暴力…

強化する。

3 施策の展開

基本目標 1 男女共同参画の意識づくり・社会づくり

▼基本的な考え方

男女共同参画社会を実現するためには、すべての人が男女共同参画の理念を認識し、必要性を理解することが重要です。性別を意識したものの見方や考え方は、幼少期から家庭や学校、地域の中で無意識に身に付くものです。

性別による固定的な役割分担意識を解消し、お互いを認め合い、多様な選択ができるよう男女共同参画の理解促進、教育・学習の充実に取り組みます。

また、地域や職場など社会のあらゆる分野で、政策や方針の決定過程に男女が対等な立場で参画することは、男女共同参画社会の実現にとって不可欠です。

これまで女性の参画が少なかった分野に女性が参画することで、多様な価値を反映した社会づくりが期待されます。

一人ひとりが自分らしく、性別や年齢にとらわれない男女共同参画社会の実現に向けて、引き続き、男女共同参画の意識づくりに取り組みます。

▼施策の方向 (1) 固定的な性別役割分担意識の解消

(2) 幼少期からの男女共同参画意識の形成

(3) 政策・方針決定過程への女性の参画促進

(4) 市役所での取組強化

〃 推進体制の充実 (第3次での表示)

▼成果指標※1

指標名	現状値	目標値 (R6年度)	出典・根拠	計画体系
男女共同参画の認知度（意味を知っている、聞いたことがある）	79.9% (H30年度)	100%	男女共同参画社会づくりのための市民意識調査	<u>1- (1)</u>
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別で役割を固定する考え方に反対する割合（反対、どちらかといえば反対）	62.3% (H30年度)	70%	男女共同参画社会づくりのための市民意識調査	<u>1- (1)</u>
大人から「男らしく、女らしく」と言われたことがない中学生の割合	27.1% (H30年度)	40%	男女共同参画に関する中学生意識調査	<u>1- (2)</u>
審議会等委員に占める女性の割合	33.3% (H30年度)	40%		<u>1- (3)</u>
<u>「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」など、性別で役割を固定する考え方に反対する市職員の割合（反対、どちらかといえば反対）</u>	<u>68.8%</u> <u>(H30年度)</u>		<u>男女共同参画社会づくりのための職員意識調査</u>	<u>1- (4)</u>

※1【成果指標】とは

5年後に目指す成果で、『何』を『どのくらい』にするかを具体的に示す数値です。

施策の方向（１）固定的な役割分担意識の解消

▼現状と課題

市民意識調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に、「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成率』は2割強となっています。5年前・10年前の調査結果と比べて賛成率は低下傾向にありますが、解消には至っていません。また、地域で男女差を感じるような慣習や慣行として「行事の炊き出しやお茶出しなどは女性の役割になっている」など、従来の固定的な性別役割分担意識に基づいたものが未だに見られます。

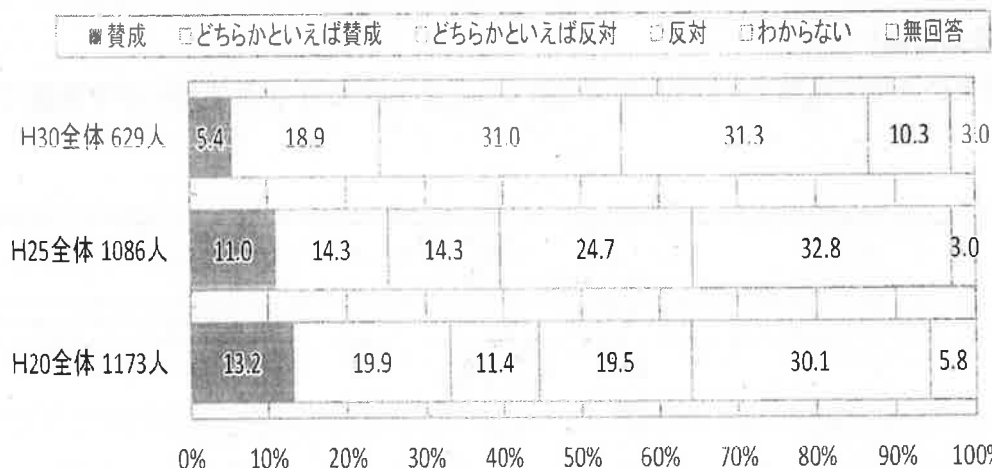
固定的な性別役割分担意識の解消に向けて、なぜ男女共同参画が必要なのかを皆で理解し、共有することが重要です。

一方、「男女共同参画」という言葉の認知度は、平成30年度では約8割と、10年間で約50ポイント増加しており、男女共同参画の意識が徐々に浸透していることがわかります。

引き続き、男女共同参画に関する啓発活動や学習機会の充実に努めるとともに、さまざまな媒体を活用して、より効果的な広報と情報提供を行います。

また、男女共同参画に関する各種調査の実施や関連資料を収集することで、現状を把握・分析し、新たな取組に繋がります。

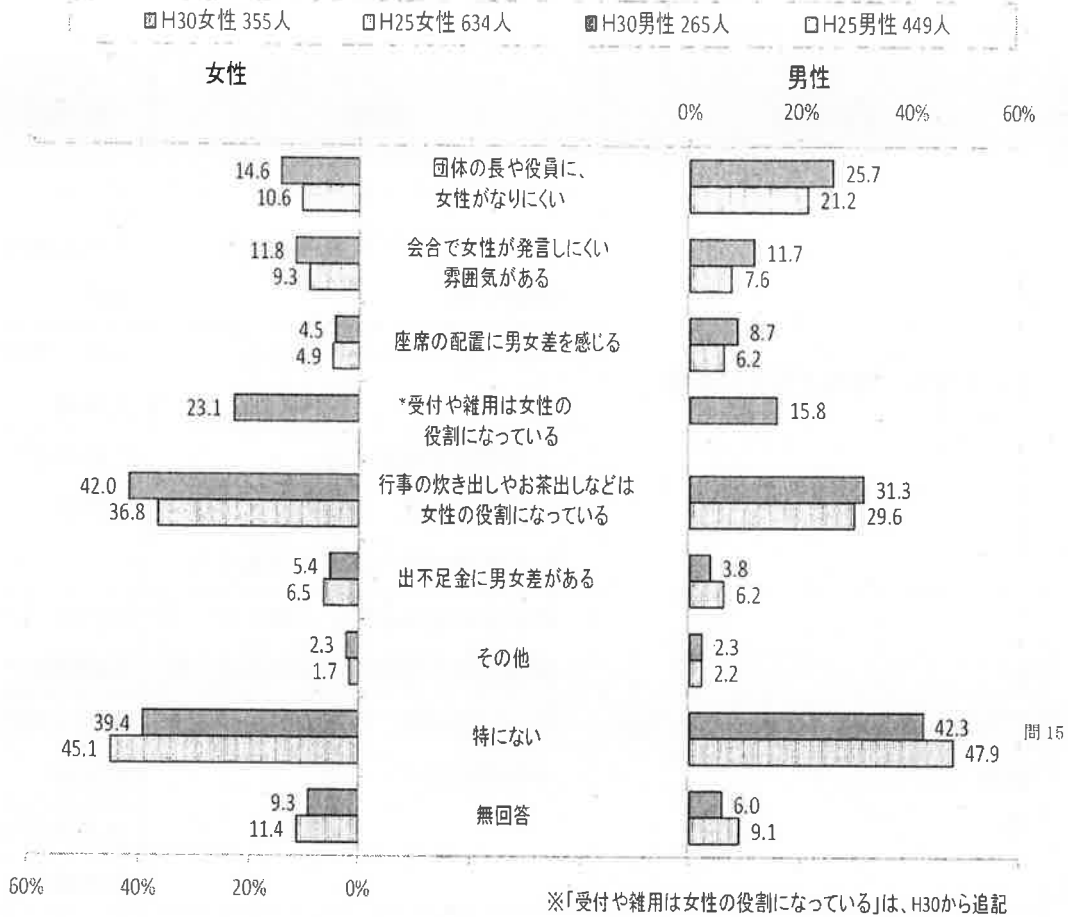
【「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方の賛否】



※H20・H25では、設問「男は仕事、女は家庭だと思う」のもと、選択肢「わからない」は、「どちらでもよい」として実施

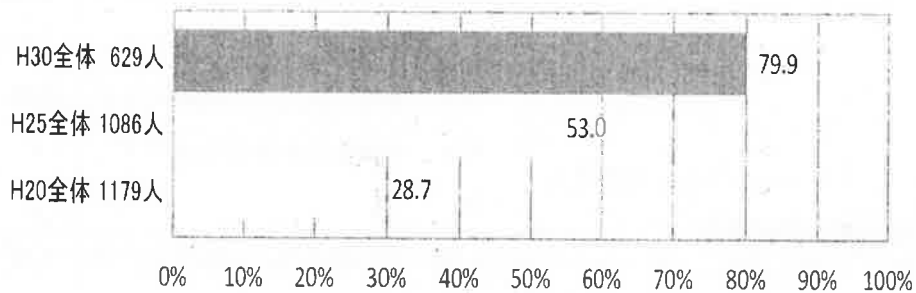
資料：唐津市男女共同参画社会づくりのための市民意識調査（平成30年）：問1-(2)

【男女差を感じるような慣習や慣行があるか】



資料：唐津市男女共同参画社会づくりのための市民意識調査（平成 30 年）：問 17

【「男女共同参画」の認知度】



※H20・H25「知っている」、H30「意味まで知ってる」+「聞いたことがある」割合

資料：唐津市男女共同参画社会づくりのための市民意識調査（平成 30 年）：問 25

▼具体的な施策

①男女共同参画の意識啓発と情報提供

②男女共同参画に関する調査、情報収集

施策	主な取組	内容	担当課
①	フォーラム、講演会などの開催	・男女共同参画推進フォーラムへの支援、男女共同参画講演会などを開催する。	男女参画・女性活躍推進課
		・人権フォーラムを開催する。	人権・同和対策課
		・人権標語を募集する。 ・公民館、地域、企業などで人権・同和教育研修や講座を実施する。	生涯学習文化財課
	市の広報媒体などを活用した情報発信	・男女共同参画週間、人権月間、人権週間など強調期間を中心に、市報、行政放送、ホームページなどで啓発を行う。	男女参画・女性活躍推進課
			人権・同和対策課
			生涯学習文化財課
	市発信広報の表現技法の工夫	・市報、行政放送、ホームページなどで、使用するイラスト・色など、男女共同参画の視点に立った表現を心がける。	市政広報課
	チラシ、リーフレットなどを活用した意識啓発と情報発信	・配布物にはQRコードを付けるなど、情報発信の方法を工夫する。 ・企業や関係団体などの組織力を活用し、情報発信の方法を工夫する。	男女参画・女性活躍推進課
			・人権パネル掲示や、人権作文の掲示を行う。 ・人権啓発懸垂幕を、本庁・各市民センターに設置する。

	関連図書の展示・貸出	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画コーナーを常設し、関連図書の展示・貸出を行う。 ・関連する出版物を積極的に収集し、担当課や市民に提供する。 	近代図書館
②	男女共同参画に関する調査の実施と情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県や民間の調査機関の統計や調査結果などを活用し、男女共同参画を取り巻く情勢の把握に努め、取組に生かす。 	男女参画・女性活躍推進課

▼活動指標

指標名	現状値	目標値 (R6 年度)
男女共同参画フォーラム、講演会などの参加者数	991 人 (H30 年度)	1,500 人
人権フォーラムの参加者数	100 人 (H30 年度)	200 人

※【活動指標】とは

具体的な施策を実施した結果で、『何』が『どのくらい』進んでいるかを示す数値です。活動指標の進捗状況を元に、要因の把握に努めます。

▼関連計画

- ・唐津市人権教育・啓発基本方針

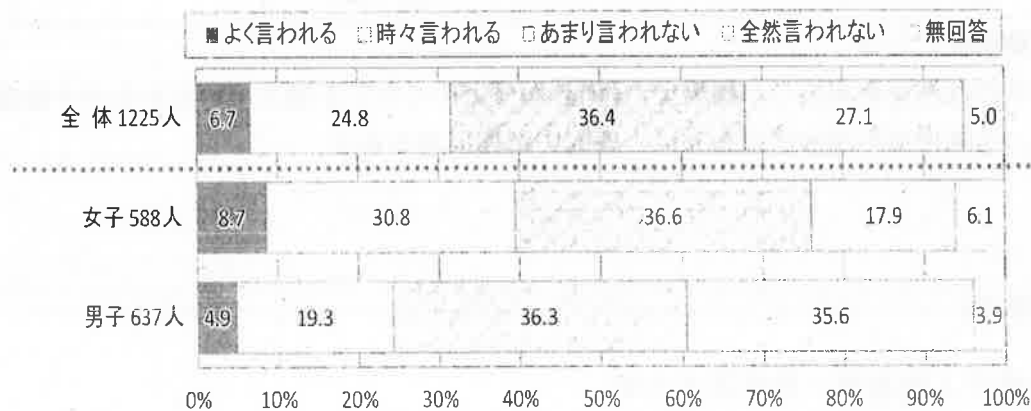
施策の方向（２） 幼少期からの男女共同参画意識の形成

▼現状と課題

中学生意識調査では、「男らしさ」や「女らしさ」などを大人から、「よく言われる」「時々言われる」生徒が全体で3割強となっています。そのような「らしさ」を言う人は、「母親」、「父親」など家族をはじめ、「先生」、「知り合い」など中学生の身近な大人が挙げられています。家庭や学校、地域では、無意識のうちに子どもたちに固定的な性別役割分担意識を植え付けてしまう可能性があることを、周囲の大人が認識することが必要です。

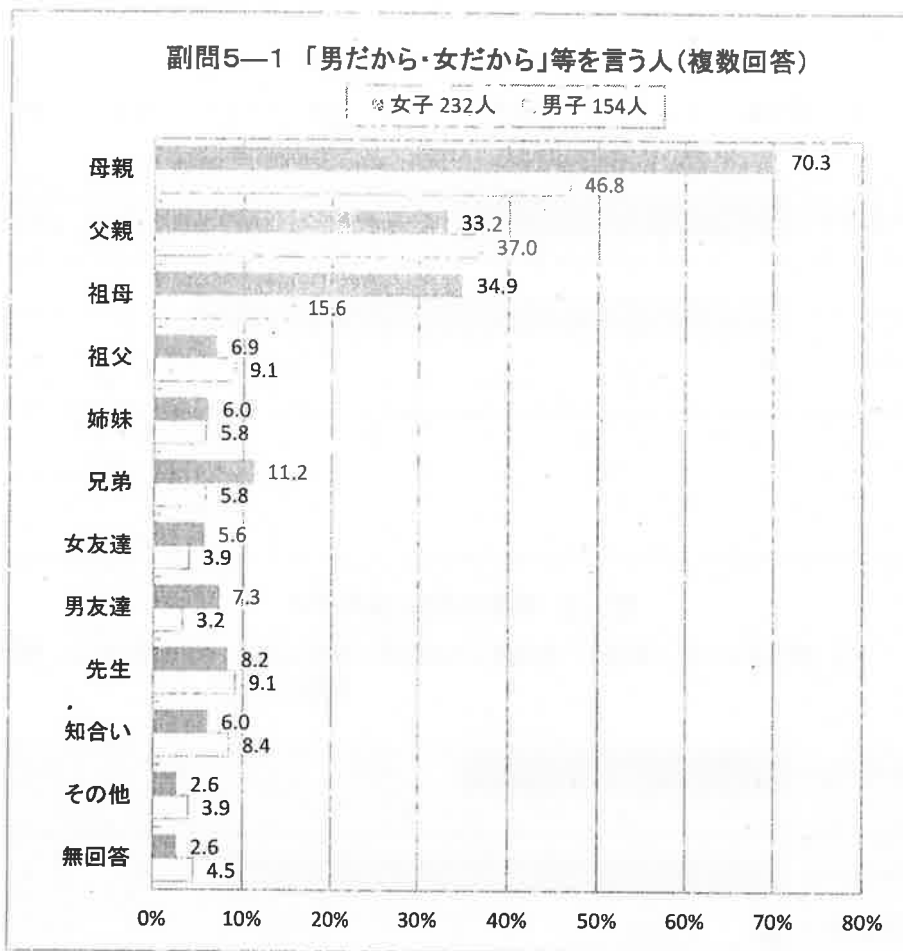
次世代を担う子どもたちが、個性と能力を発揮して、健やかに成長し、幼少期からの男女共同参画の理解や、将来を見通した自己形成ができるように、家庭や学校、地域で男女共同参画の推進に取り組みます。

【「男・女らしさ」などを大人から言われる頻度】

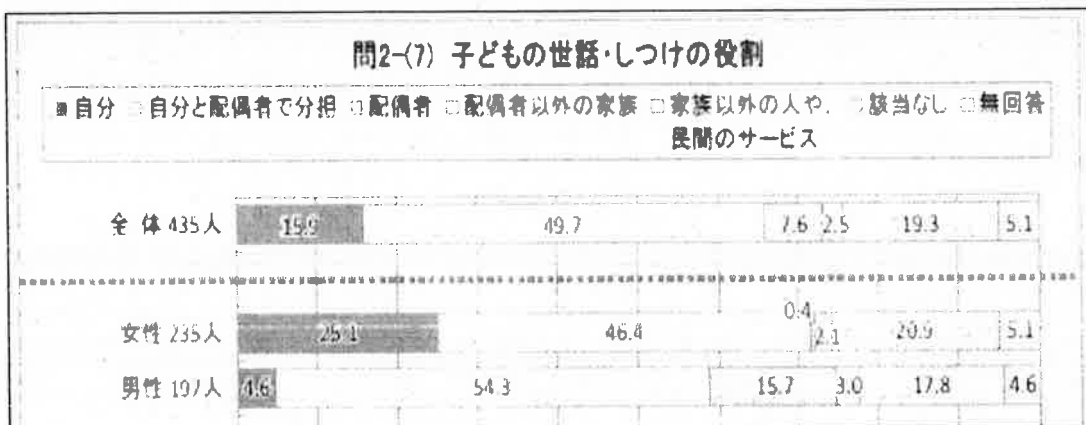
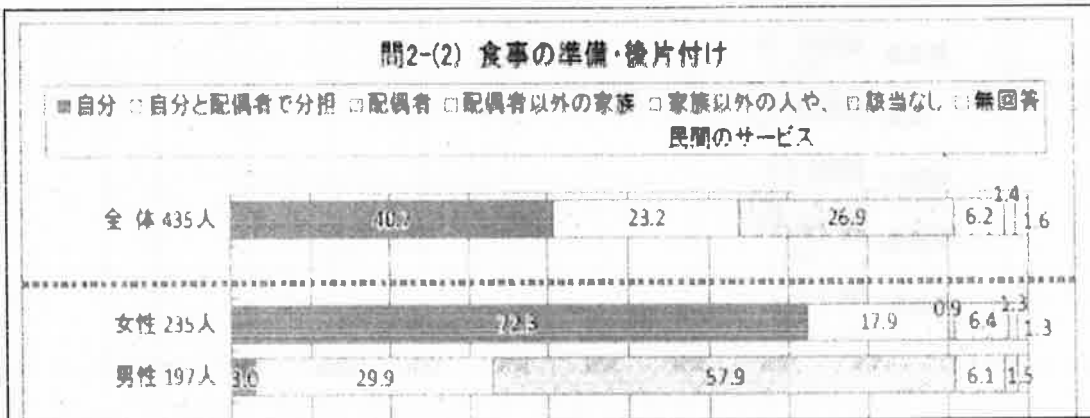
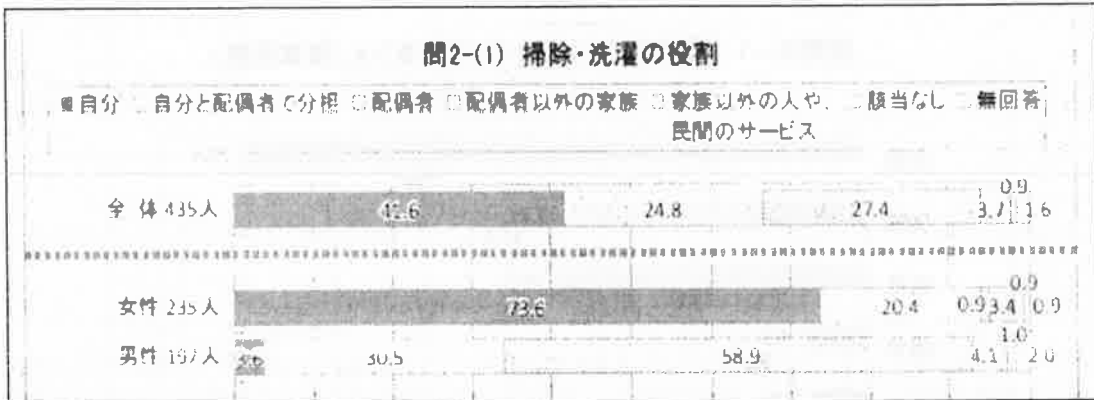


資料：男女共同参画に関する中学生意識調査（平成30年）：問3

<追加>



<追加>



▼具体的な施策

①家庭や地域での男女共同参画の推進

②学校等での男女共同参画教育の推進

施策	主な取組	内容	担当課
①	<u>家庭に関わる意識の形成</u>	・ <u>男性の家事・育児・介護参画を促進する講座を開催する。</u>	男女参画・ 女性活躍推進課
		・ <u>家族のコミュニケーションを高める講座を開催する。</u>	生涯学習文化財課
		・ 父親に向けてのミニブックを配布し、子育ての意識啓発を行う。 ・ 夫婦で、妊娠・出産・子育てについて学ぶことができる、「もうすぐママパパサポート教室」を開催する。	保健医療課
	市民団体と連携した学習機会の提供	・ 出前講座などを実施する。	男女参画・ 女性活躍推進課
	子どもの体験活動に関わる地域のリーダー、子育て世代の親等への男女共同参画の啓発		生涯学習文化財課
	青少年にとって有害な環境の浄化活動の推進		生涯学習文化財課
②	教職員の意識向上		学校教育課
	学校での人権教育・男女平等教育の推進		学校教育課
		人権標語、人権ポスターを募集する。	人権・同和対策課

	中学校子育てサロンを実施する。	生涯学習文化財課
青少年の相談窓口を整備		人権・同和対策課

▼活動指標

指標名	現状値	目標値 (R6年度)
市民団体と連携した講座などの参加者数	635人 (H30年度)	700人
家事を自分・パートナー同程度に行っていると回答する男性の割合 (男女共同参画社会づくりのための市民意識調査)	24.8% (H30年度)	50%
未就学の子どもがいる家庭の男性の1日当たり育児・家事従事時間(検討中) (男女共同参画社会づくりのための市民意識調査)	分 (H30年度)	分
さまざまな地域活動に参加したことがない人の割合(直近3年間) (男女共同参画社会づくりのための市民意識調査)	37.0% (H30年度)	20%
公民館運営審議会の女性委員登用率	26.9% (H30年度)	40.0%

▼関連計画

- ・唐津市人権教育・啓発基本方針
- ・唐津市教育大綱

施策の方向（3）政策・方針決定過程への女性の参画促進

▼現状と課題

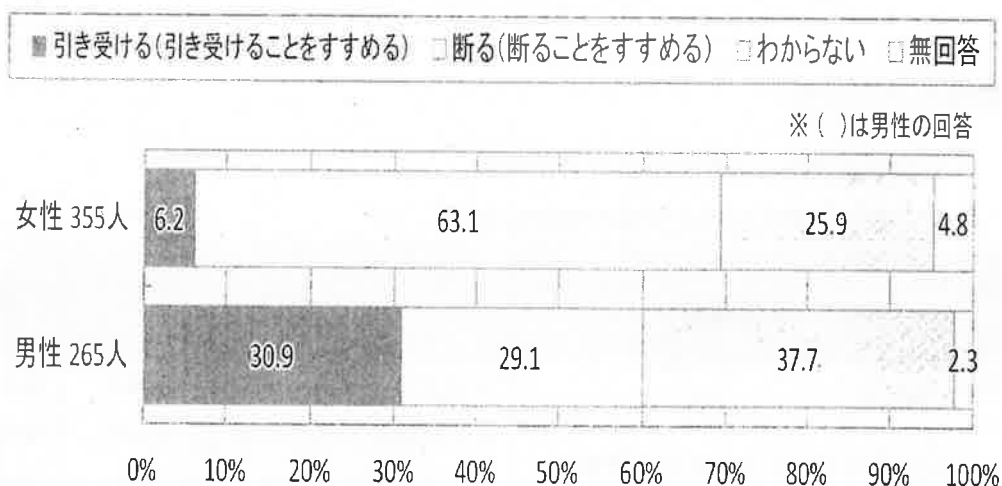
唐津市の公的審議会等の女性登用率は、男女共同参画行動計画（第3次）（平成27年度～令和元年度）の目標値40.0%以上に対して、平成21年度から3割前後と横ばいで推移しています（P●；第2章参照）。教育委員や民生委員・児童委員は、男女比が同程度となっているものの、その他の委員は、いまだ女性が十分に参画しているとは言えない状況です。更なる女性の参画を目指し、引き続き登用率向上に向けた取組の推進が必要です。

一方、市民意識調査では、地域の役職に推薦された時に、女性は「断る」が6割強と、女性自身が消極的な傾向が見られますが、断る理由として「責任が重いから」「役職につく知識や経験がないから」が多く挙げられています。

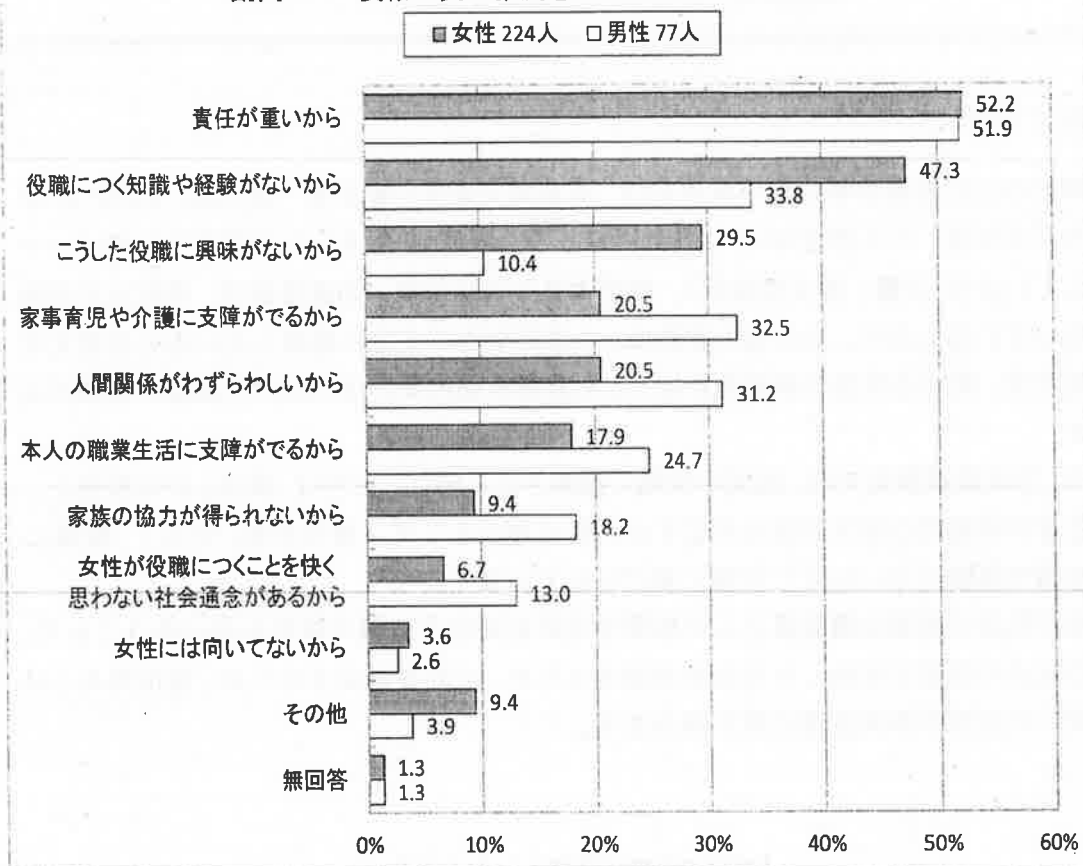
男女が社会の対等な構成員として政策や方針を決定する場で意見を述べ合うことで、多様な視点や価値を反映した社会を実現するため、公的審議会をはじめ、政治等あらゆる分野への女性の参画促進に取り組みます。

【地域の役職に推薦されたとき】

【（男性に対して）配偶者などの身近な女性が地域の役職に推薦されたとき】



副問17-1 役職の長の推薦を断る理由(3つまで選択)



▼具体的な施策

- ①公的審議会等への女性委員の登用促進
- ②あらゆる分野における女性の参画促進

施策	主な取組	内容	担当課
①	女性委員登用に向けた意識啓発	女性委員の登用が進まない審議会等に積極的な登用を働きかけるほか、その候補者の情報提供（女性人材バンクの活用）を行う。	男女参画・女性活躍推進課
	唐津市女性人材バンク登録者の拡大	審議会等への女性委員候補として唐津市女性人材バンクの登録者の拡大に努める。	男女参画・女性活躍推進課

②	人材育成や女性参画促進のための講座や研修などの実施と情報提供	あらゆる分野に女性が積極的に参加できるように、人材育成に向けた講座や研修の実施や情報提供を行う。	男女参画・女性活躍推進課
	男女共同参画を推進する市民グループ、団体などとの連携強化	地域で活動する団体と連携して、公民館などで男女共同参画に関する講座を実施する。	生涯学習文化財課

▼活動指標

指標名	現状値	目標値 (R6 年度)
唐津市女性人材バンク登録者数	21 人 (H30 年度)	30 人

▼関連計画

施策の方向（４）市役所での取組強化

▼現状と課題

唐津市では、男女共同参画行動計画（第3次）（平成27年度～令和元年度）で、市職員における係長以上の女性職員の割合を目標値25.0%としていましたが、平成31年度当初で19.4%と目標達成には至っていません。（P●；第2章参照）

市自らが、あらゆる施策に男女共同参画の視点を取り入れることは、社会に与える影響も大きいことから、職員一人ひとりが男女共同参画の意義や必要性についての理解を深め、率先して行動することが、男女共同参画社会の実現に不可欠です。

このため、職員に対する啓発と男女共同参画意識の徹底・向上に取り組みます。また、職員の意識向上をより具体的かつ実践的に進めるため、ワーク・ライフ・バランスの推奨や管理職への女性の登用促進など、唐津市特定事業主行動計画に基づき、男女共同参画の模範となる組織づくりに取り組みます。

▼具体的な施策

①男女共同参画の意識向上と女性活躍の推進

施策	主な取組	内容	担当課
①	市職員全員に対する男女共同参画の意識の徹底、向上	・男女共同参画意識の徹底に向けた啓発・研修を行います。	人事課
	係長以上の女性職員登用の促進		人事課
	セクシャル・ハラスメントなどの被害者相談窓口の整備および周知		人事課
	市職員に対するワーク・ライフ・バランスの推奨		人事課

▼活動指標

指標名	現状値	目標値 (R6 年度)
職員対象の啓発・研修の参加者数	97 人 (H30 年度)	130 人
係長以上の女性職員の割合	19.4% (H31. 4. 1 現在)	25%
女性の管理職（副部長・課長相当職）割合	13.0% (H31. 4. 1 現在)	16%
男性職員の配偶者出産休暇取得率	79.5% (H30 年度)	100%
男性職員の育児参加休暇取得率	10.3% (H30 年度)	20%
男性職員の育児休業取得率	0% (H30 年度)	5%
職員一人当たりの1年間の時間外勤務時間		
職員一人当たりの年次休暇取得率		

▼関連計画

- ・唐津市人材育成基本方針
- ・唐津市特定事業主行動計画

基本目標 2 安全・安心な社会づくり

▼基本的な考え方

近年、集中豪雨や予期せぬ地震など、自然災害が増えており、市民の防災意識は高まっていると考えられますが、その一方で、避難所等における男女で異なったニーズや状況への配慮がないことや、地域住民同士の繋がりが希薄になっていることが指摘されています。

特に災害時は、平常時の社会の課題が一層顕著に表れるため、これまでの慣行や考えにとらわれない男女共同参画の視点で地域防災を考え、避難所運営マニュアルの設計や、共に助け合う地域コミュニティを形成するなど、災害時に備えた意識の醸成と具体的な取組を検討します。

また、男女が生涯を通じて生き生きと過ごすためには、心身の健康を保つことが重要です。特に女性は、妊娠・出産や特有のがんなどの健康問題に直面する可能性があります。一方、近年社会問題になっている自殺は、男性が多い傾向にあります。男女共同参画社会実現に向けて、男女の特性に応じた心身の健康づくりに取り組みます。

さらに、女性は、出産・育児・介護などの事情で就業の中断を余儀なくされたり、非正規雇用労働者が多いことなど、男性に比べて貧困などの生活上の困難に陥りやすくなっています。こうした女性の貧困問題をはじめ、高齢や障がい、LGBTs（性的少数者）であることなどを理由に、地域でさまざまな困難を抱えた人が、日常に感じている不安や不便を軽減し、すべての人が自立した生活を送れるよう、環境整備に取り組みます。

- ### ▼施策の方向
- (1) 地域防災における男女共同参画の推進
 - (2) 生涯を通じた心身の健康支援
 - (3) 暮らしに困難を抱えた人への支援

▼成果指標

成果指標名	現状値	目標値 (R6 年度)	出典・根拠	計画体系
消防団員に占める女性の割合 (全 3,711 人)	47 人 (H31 年度)	111 人	全団員数 (3,711 人) の 3% を目指すもの	<u>2 - (1)</u>
がんの検診受診率	子宮頸がん <u>23.7%</u> 乳がん <u>13.5%</u> (H30 年度)	<u>50%</u>	県の重点目標としている「女性特有のがん対策を総合的に推進」に基づくもの	<u>2 - (2)</u>
子どもの貧困率	13.7% (H30 年度)	%	唐津市子どもの環境調査	<u>2 - (3)</u>

施策の方向（１）地域防災における男女共同参画の推進

▼現状と課題

これまでの大規模災害の避難所生活では、平常時の固定的な性別役割分担意識が反映され、炊き出しなど女性の負担が大きかったこと、性別によって異なるニーズや状況への配慮が行き届かなかったこと、避難所でのDVや性被害の未然防止の必要性などが指摘されています。

国は、これまでの災害対策における経験を基に、平成25年「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」を作成し、地方公共団体が災害時に男女共同参画の視点で取り組む際の基本的事項を示しています。平成30年に策定された「唐津市地域防災計画」でも、市民に対する防災知識の普及にあたっては、要配慮者を支援する体制が整備されるよう努めるとともに、被災時の男女のニーズの違いや、意思決定の場に女性の参画が重要であることなど、男女双方の視点に十分に配慮することが求められています。

このことから、男女共同参画の視点に立った防災対策の推進と、防災会議や、消防団などへの女性参画促進に取り組みます。

▼具体的な施策

①男女共同参画の視点に立った防災対策の推進

②防災分野への女性の参画促進

施策	主な取組	内容	担当課
①	市民の防災体制の構築の奨励や支援	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の行動、注意点（性犯罪、DV防止を含む）等に関する説明会を実施する。 ・職員や自主防災組織などに対する避難所におけるDV防止啓発する。 	危機管理防災課
	男女のニーズに配慮した物資の整備		危機管理防災課
	地域防災における男女共同参画の必要性の啓発・情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画の視点を取り入れた、避難所運営のマニュアル作成や地域防災計画の周知を行う。 	危機管理防災課

			男女参画・ 女性活躍推 進課
②	各種イベントでの広報活動	・応急手当、防火広報、独居老人宅への 防火訪問、幼稚園保育園での防火活動 を実施する。	地域消防課
	消防団などへの女性の参加促 進の啓発	・女性消防団員の役割増加 (予防活動、後方支援、避難所運営)	地域消防課
	・防災分野への女性の積極的参 加の啓発		危機管理防 災課

▼活動指標

指標名	現状値	目標値
自主防災組織、住民向け防災説明会実施	15回	15回

▼関連計画

- ・唐津市地域防災計画

施策の方向（２）生涯を通じた心身の健康支援

▼現状と課題

唐津市では、からつ元気いっぱい健康プラン21（平成24年度策定）により、生活習慣病の予防や改善、健康づくりのための環境整備への取組を計画的に実施していますが、女性は妊娠・出産や、性別特有の健康上の問題などに直面することに留意する必要があります。

近年社会問題になっている自殺は、その多くが追い込まれた末の死であり、自殺者の男女比は男性が女性の3倍に上っています。市民意識調査の結果では、「弱音を吐けなかったり、悩みを相談できないこと」をつらいと感じる男性の姿が見られました。

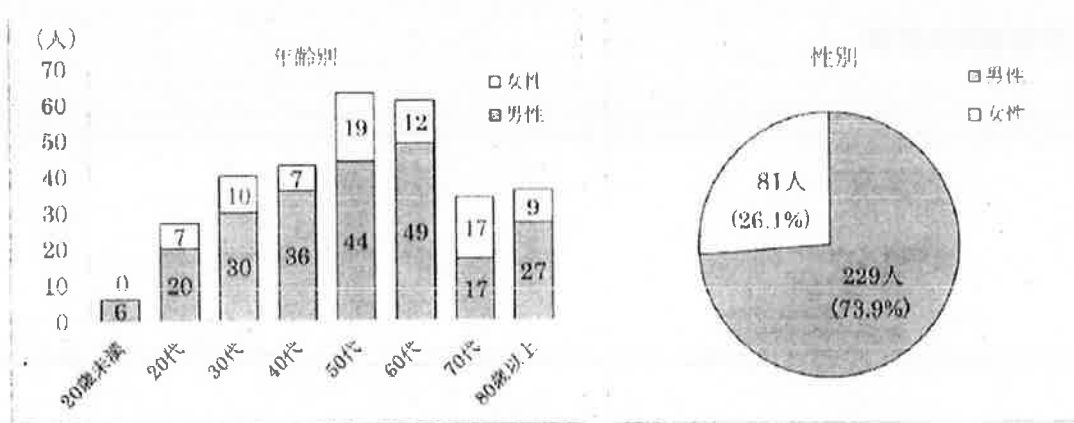
また、女性の身体を守るために知っていた方がよいこととして、男女ともに「妊娠・出産について」、「更年期障害・婦人科系の病気について」が多く挙げられています。

働きながら妊娠・出産を迎える女性が増えていますが、働く場で女性が母性を尊重され、安心して子どもを生み育てる環境を整備することは、女性の能力発揮の促進に加え、生涯を通じた女性の健康確保などの観点からも重要な課題です。

男女がともに健康を適切に管理・改善していくために、各種健康診査の受診促進や健康相談の充実など、性差を踏まえた心と身体の健康づくりと、妊娠・出産に関する理解促進に取り組みます。

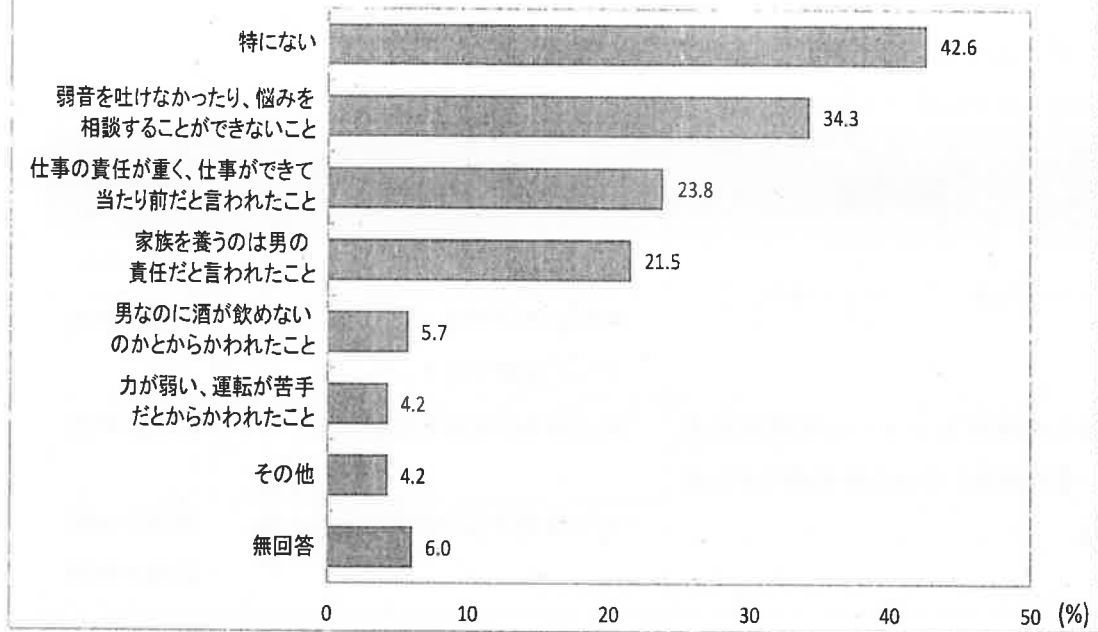
図3 唐津市の年齢・性別自殺者数

（平成21年から29年自殺者の総数310人）

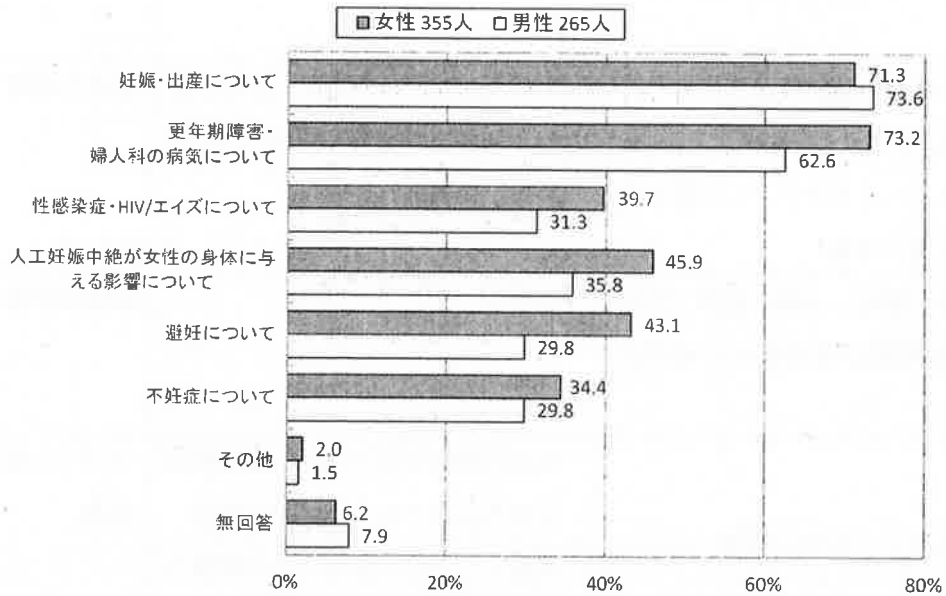


出典：地域における自殺の基礎資料（自殺日・住居地別）

問14 「男」もつらいと感じたことはありますか(男性のみ・複数選択)



【女性の身体を守るために、知っていた方がよいこと】



資料：唐津市男女共同参画社会づくりのための市民意識調査（平成30年）：問13

▼具体的な施策

①性差を踏まえた心と身体の健康づくりの推進

②妊娠・出産に関する理解の促進

施策	主な取組	内容	担当課
①	身体 の健康づくりの場の確保		保険年金課
		・生活習慣病予防のための、健康づくりを推進する。	保健医療課
	特定健康診査などの各種健康診査の受診促進、特定保健指導の参加促進	・がん検診の受診を促進する。	保健医療課
		・特定健康診査の受診を促進する。	保険年金課 保健医療課
	健康相談の充実	・生活習慣病重症化予防のための保健指導を充実する。	保健医療課
			高齢者支援課
	薬物乱用防止対策の充実、喫煙・飲酒の人体への影響に関する知識の普及		保健医療課
	地域での連携・協力による自殺予防の取り組み (メンタルヘルスケア、心の病を予防する対策の充実)	・ゲートキーパーや民生・児童委員など地域での連携・協力による自殺予防の取組みを行う。	保健医療課
県、医療、福祉、労働、警察、消防の各関係機関の連携強化と情報共有		保健医療課	
健康づくりイベントの開催	・生活習慣病予防のため、各年齢層の体力に応じたスポーツ大会を開催し、市民の体力向上と健康づくりの推進を図る。	スポーツ振興課	
②	男女ともに妊娠、出産、産後への理解を深めるための意識啓発	・妊娠・出産・育児について同居家族などへの意識啓発を行う。	保健医療課

	<ul style="list-style-type: none"> ・もうすぐママパパサポート教室を実施し、妊娠出産に対する身体的ハイリスク妊婦に対して、パートナーとともに参加してもらい、元気な児が誕生するよう妊娠期から協力してセルフケアに取り組めるよう教室を実施する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・働く女性の母性保護の啓発を行う。 	商工振興課
		男女参画・女性活躍推進課
妊娠・出産・育児に関する相談・保健指導・健診の充実		保健医療課
母子保健対策事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療体制を充実する。 	保健医療課

▼活動指標

指標名	現状値	目標値 (R6年度)
特定健康診査(※1)の受診率	39.7%	50.0%
特定保健指導(※2)の実施率	59.2%	60.0%以上
特定妊婦(※3)数	人	人

※1 メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)を早期発見するための健康診査

※2 検診により自分の体の状況を確認して、生活習慣病にならないようにすることを目的としている。

※3 出産前に支援を行うことが特に必要と認められる妊婦

▼関連計画

- ・からつ元気いっぱい健康プラン21
- ・唐津市自殺対策計画

施策の方向（3）暮らしに困難を抱えた人への支援

▼現状と課題

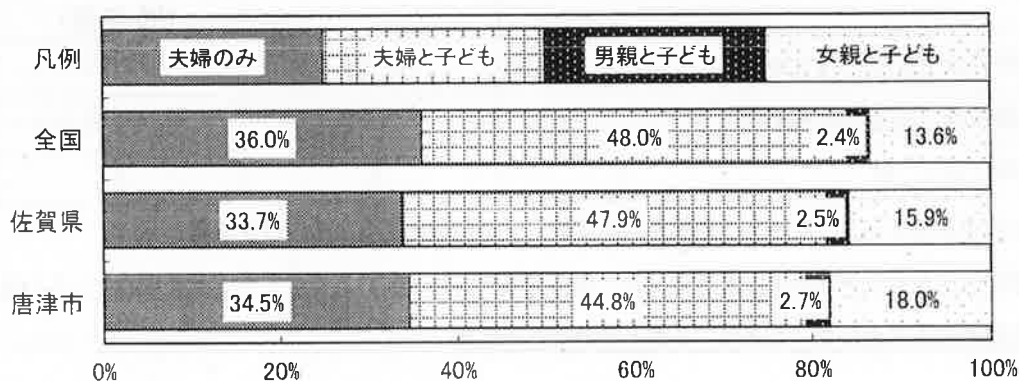
女性は、出産・育児などで就業を中断する人や非正規雇用労働者が多いため、男性に比べ安定した所得を得ることができず、貧困など生活上の困難に陥る場合があります。ひとり親、高齢者、障がい者、外国人などは、女性であるために一層困難を抱えることがあります。唐津市は、ひとり親世帯の割合が国や佐賀県と比較して高く、自立に向けた支援が必要です。

市民意識調査では、LGBTs（性的少数者）の認知状況は、言葉の意味まで知っている人は4割弱と、年代によって認知度に差がみられ、中学生意識調査では、「自分の性や、心の性に悩んだことがある」生徒は約1割でした。LGBTsの人は、周囲の理解不足や偏見などで、日常生活上の困難に直面することが多いと言われています。多様な生き方を理解し尊重する取組が、今後ますます重要になっています。

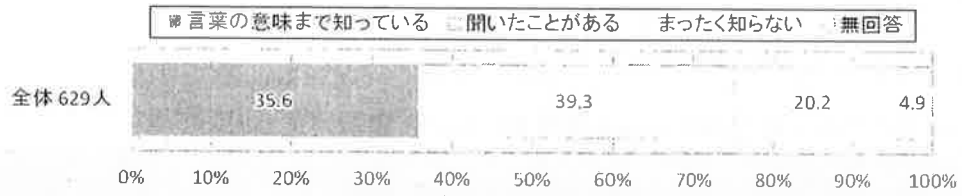
さまざまな困難を抱えた人々が自立し安心して暮らすことができる生活環境の整備と、あらゆる人の人権尊重に向けた意識啓発と情報提供に取り組めます。

<追加>

【核家族世帯の家族類型別構成】

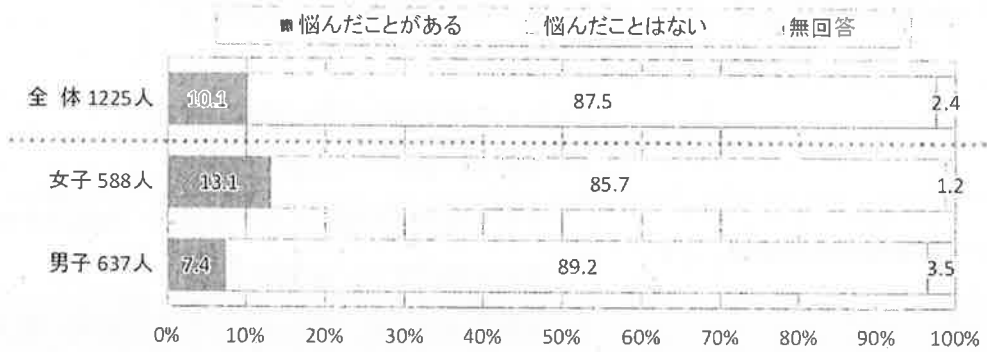


【「LGBTs（性的少数者）」の認知度】



資料：唐津市男女共同参画社会づくりのための市民意識調査（平成30年）：問16

【自分の性、心の性に悩んだことがあるか】



資料：男女共同参画に関する中学生意識調査（平成30年）：問17

▼具体的な施策

①困難を抱えた人が安心して暮らせる環境の整備

②性別に関わりなくあらゆる人の人権尊重に向けた意識啓発と情報提供

施策	主な取組	内容	担当課
①	ひとり親家庭の自立支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親の就職に必要な知識・技能の取得に支援を行う。 ・ひとり親の就職に有利で生活の安定に資する資格取得に支援を行う。 ・ひとり親家庭の児童の進学、就職等資金の貸付けの支援を行う。 	子育て支援課
	ひとり親家庭の居住支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親世帯の優先入居（抽選回数を2回とする）を実施する。 	建築住宅課
	地域生活支援拠点等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時の対応や、親なき後の生活に対する支援等のため、地域で安心して生活できるよう、「地域生活支援拠点等」の整備を進める。 	障がい者支援課
	高齢の人や障がいのある人が安心して暮らせる生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉サービスや社会資源の量と質を確保しながら、障がいのある方の生活を支援するとともに、障がいのある方の家族に対しても、ショートステイや日中一時支援事業等の利用により、家族の身体的・精神的負担軽減を図ることで、地域での生活を支援する。 ・障害のある方やその家族等からの相談に対して、専門の相談員（社会福祉士、精神保健福祉士等）が対応し、各種の障がい福祉サービスや社会資源の利用援助、情報提供等を行い、必要に応じて関係機 	障がい者支援課

		関とも連携し、社会参加や自立を支援する。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活支援体制の整備 ・高齢者見守り体制づくりの推進を行う。 	地域包括支援課
		<ul style="list-style-type: none"> ・在宅福祉サービスや施設介護の充実など、介護支援体制の充実に努める。 	高齢者支援課
	高齢者の社会参加活動の推進		地域包括支援課
②	啓発活動の推進		人権・同和対策課
	人権研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の人権問題や、障がいのある人との共生社会の実現のために関心と理解を深める人権研修の推進を行う。 ・性的指向や性自認等に関する問題について関心と理解を深める人権研修を行う。 	生涯学習文化財課
	相談体制の充実		人権・同和対策課

▼活動指標

指標名	現状値	目標値 (R6 年度)
高齢者見守りネットワーク事業協力事業所数	100 事業所	83 事業所 (令和 2 年)
介護支援ボランティア登録者数	168 人	210 人 (令和 2 年)
認知症サポーター養成講座受講者数	862 人	626 人 (令和 2 年)
(ひとり親家庭) 自立支援教育訓練給付金利用人数	4 人	—
(ひとり親家庭) 高等職業訓練推進資金貸付金利用人数	23 人 (H30 年度)	—

▼関連計画

- ・唐津市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
- ・唐津市地域福祉計画・唐津市地域福祉活動計画
- ・唐津市人権教育・啓発基本方針
- ・唐津市障がい者基本計画・からつ自立支援プラン
- ・子ども・子育て支援事業計画
- ・子どもの貧困対策推進計画